

海と空にひらかれた、新しい湘南のスポーツ拠点

ー 公民連携で生まれた海沿いスケートパークの挑戦

湘南の海を目の前に、江の島や富士山まで見渡せるロケーションに誕生した大型スケートパーク。

本施設は、かつてプールとして使われていた跡地を再活用し、民間事業者が設計・建設・運営までを一体で担う新しい公園モデルとして整備されました。

特徴的なのは「スケートパークでありながら、誰でも立ち寄れる“公園”であること」。行政は、商業施設化に偏らないよう、継続的なスケート利用の確保や公園機能の維持、既存駐車場の存続といった公共性を条件に設定し、民間のノウハウと公共性を両立した形で運営が続けられています。

唯一無二のロケーションと、6,700 m²の大規模パーク

この施設最大の魅力は、なんとといっても立地です。

目の前には湘南の海、そして江の島、天気の良い日には富士山や烏帽子岩まで見渡せる圧倒的な景観。国内でも例を見ない「海と一体化したスケートパーク」といえます。滑走エリアは約 6,700 m²という大規模設計で、一般的な街中のパークとは一線を画すスケール感。

ストリートセクション、ボウル、レール、階段に加え、サーフカルチャーとの親和性を意識した“スネーク”形状のセクションも配置されており、湘南らしさを随所に感じる設計となっています。



初心者からプロまで受け入れる「段階式」設計

もうひとつの特徴は、「誰でも始められて、長く続けられる」導線づくりです。

入口付近には完全フラットの初心者ゾーンが設けられ、そこから徐々に難易度の高いセクションへと進めるステップアップ設計。

スケートボードが初めての方や、子どもでも安心して練習できる環境が整っています。また、常駐スタッフはプロレベルの技術を持つメンバーが多く、用具や安全装備の相談にも丁寧に対応。

「危険そう」というイメージを覆すような、安心感のある運営体制が印象的でした。



実際に体験して感じたこと(学生取材より)

正直に言うと、私はこれまでスケートボードにほとんど触れたことがなく、最初は「ボードの上に立つことすら難しいのでは」と不安に感じていました。

過去に友人と一度だけ挑戦したことはありましたが、そのときはまったく乗ることができず、スケートボードは自分には難しいものだと思っていました。

しかし今回は、施設スタッフの方が丁寧に声をかけながらサポートしてくださり、乗り方や体の使い方を一つひとつ教えてくれました。そのおかげで、短い時間ではありましたが、実際にボードの上でバランスを取り、軽く滑るところまで体験することができました。初心者の目線に立った教え方と、安心して挑戦できる環境が整っているからこそ、初めてでも前向きに取り組む事が出来ました。

低料金で開かれた、本当に“地域の場所”

本施設は鵜沼プール時代の料金体系をベースにしており、非常に低価格な利用料が設定されています。

中学生以下は 100 円、週末でも 200 円、高校生以上でも 400 円という価格は、他の有料パークと比べても破格。

「誰でも続けられる場所にしたい」という理念が、料金設定からも感じられます。

実際の利用者層は、大人と子どもが 6:4 ほど。小学生以下の利用が非常に多く、回数券を使って何度も通う子どもたちの姿が日常的に見られます。

大人では 20～50 代まで幅広く、特に 40～50 代の常連利用者が多い点も印象的でした。



「湘南オープン」の復活と、進化するイベント文化

かつて多くのスケーターに親しまれた大会イベント「湘南オープン」は、新しいパークの完成により復活。初回開催では 2 日間で約 2 万 5 千人もの来場者を記録し、大きな注目を集めました。

イベントはあくまで事業者主体で企画・運営されており、民間の柔軟さを生かしながら、地域に根ざしたイベントとして成長を続けています。

海浴い立地ならではの“見えない努力”

美しいロケーションの裏側で、日々続けられているのが砂害・塩害対策です。

海からの強風により、滑走面に砂が入り込みやすく、毎日の清掃は欠かせません。

さらに塩分を含んだ潮風により、フェンスや金属パーツの腐食も早く、通常よりも短いサイクルで削り直しや再塗装が必要となっています。

「最高の環境を当たり前に見える」状態は、こうした日常的なメンテナンスによって支えられています。



撮影・メディア対応と、新しい湘南の発信拠点

本施設は、テレビ番組、SNS、ミュージックビデオなどの撮影にも積極的に協力しています。

一方で、スポンサー契約のある選手やブランドに関しては、厳格な権利管理を徹底。一般利用者の無断撮影や、周辺住宅への配慮など、細かなルール整備も行われています。

「スケート＝危険・不良」という過去のイメージを払拭し、スポーツとして、文化として発信していく拠点としての役割も担っています。

湘南海岸の回遊性を高める“拠点”として

江の島方面から鵜沼エリアへと人の流れを生み出すため、バスやシェアサイクルとの連携も進められています。

外国人観光客が立ち寄る姿も増え、単なるスポーツ施設ではなく「湘南観光の立ち寄りスポット」としての存在感も高まっています。

まとめ

本施設は、単なるスポーツ施設ではなく、民間の力と公共性を両立させた新しい公園モデルとして、湘南の新しい風景をつくり続けています。

圧倒的なロケーション、誰でも受け入れる設計、そして地域に還元される料金設定。そこには「続けられる場所をつくる」という、静かだけれど強い意志が感じられました。

今後、大型イベントの開催や観光連携がさらに進む中で、この場所が湘南を代表する文化拠点へと進化していくことが期待されます。



併設されている、ムラサキスポーツ。

スケボー好きにはたまらない店内なので是非行ってみてください！